

事務事業評価シート

(平成 26 年度実施事業)

事務事業名	ネットワーク構築整備事業			事業コード	0063
所属コード	021200	課等名	総務部 情報企画室	係名	
課長名	高橋 享孝	担当者名	増田 剛	内線番号	2663
評価分類	☒ 一般 ☐ 公の施設 ☐ 大規模公共事業 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				

1 事務事業の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（旧総合計画体系における位置づけ）

総合計画 体系（旧）	施策の柱	信頼される質の高い行政	コード	8
	施策	より便利な行政サービスの構築	コード	5
	基本事業	電子市役所の構築	コード	2
予算費目名 (H26)	一般会計 2 款 1 項 1 目 LAN 網構築整備事業（012-01）			
特記事項 (H26)				
事業期間	☐ 単年度 ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度		開始年度	H11 年度
根拠法令等 (H26)				

(2) 事務事業の概要

庁内及び施設間において、コンピュータを使用した業務処理の基盤となる庁内ネットワークの安定稼働を図るため、アクセス制限などのセキュリティ確保、業務処理に必要な通信容量の確保、適切なネットワークの設定を含め、ハード・ソフト両面での保守管理や整備を行う。

(3) この事務事業を開始したきっかけ（いつ頃どんな経緯で開始されたのか）

平成 11 年度の住民記録等のオンラインシステムの切り替えや介護保険事業の開始に伴い、コンピュータネットワークを利用して情報を共有する形が前提となった。更に、平成 12 年度には、グループウェアシステムの導入により、出先施設を含めた全庁ネットワークを構築・整備する必要が生じたことにより事業を開始した。

(4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

市民サービスを効率的に提供または処理するためには、電算システムの活用が不可欠となっている状況に変化はない。情報技術の進歩とともにデータの処理スピードが上がりデータ量が増加しており、基盤となる庁内ネットワークシステムの整備、安定稼働及び帯域の確保は必須となっている。

市民が対象ではないため直接の要望はないものの、平成 24 年度市民アンケートでは、情報化社会における不安や問題点について、「知らないうちに自分の情報が他人に漏れていることへの心配」が 83.6 パーセント、「情報通信網の事故による社会生活のまひや混乱」が 47.3%となっており、不安要素の解消に向け、当該事業に関連するセキュリティ対策やネットワークの安定稼働が求められているといえる。

2 事務事業の実施状況（Do）・・・・・・・・・・・・・・・・

（1）対象（誰が、何が対象か）

ネットワークを利用している職員、ネットワークを構成している機器、各種電算システムサーバ等

（2）対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 見込み	26 年度 実績
A パソコンを利用する職員数	人	2,400	2,535	2,747	2,800	2,822
B ネットワーク接続された施設数	箇所	161	162	162	159	159
C						

（3）26 年度に実施した主な活動・手順

- ・安定稼働を図るための設定や保守管理
- ・本庁舎及び施設間ネットワーク機器更改に係る詳細設計
（基幹線及びPC等へ接続するLANケーブルの更新，HUB等の機器更改）
- ・浅岸小学校，外山小学校，藪川中学校閉校に伴うネットワーク機器の撤去
- ・組織機構見直しに伴う執務室移動に係るLAN配線

（4）活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A メール通数	通	5,233,536	5,532,772	6,510,168	6,520,000	7,442,675
B ネットワークに接続している機器（サーバ，通信機器）	個	923	931	930	927	927
C						

（5）意図（対象をどのように変えるのか）

庁内ネットワークにおける通信基盤の整備と保守管理を行うことにより，電算システムを利用した情報の交換をスムーズかつ迅速に行うことができ，各課業務の効率化が図られる。

（6）成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	23 年度 実績	24 年度 実績	25 年度 実績	26 年度 目標値	26 年度 実績
A 接続施設数と回線容量に基づく総回線容量	■上げる □下げる □維持	Mbps	9,730	9,830	9,800	9,800	9,800
B サーバを使用した情報システム	■上げる □下げる □維持	個	145	154	163	163	163
C	□上げる						

	☐ 下げる ☐ 維持						
--	---	--	--	--	--	--	--

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	23年度 実績	24年度 実績	25年度 実績	26年度 計画	26年度 実績
事業費	①国	千円	0	0	0	0	0
	②県	千円	0	0	0	0	0
	③地方債	千円	0	0	0	0	0
	④一般財源	千円	61,939	62,663	65,088	66,023	66,010
	⑤その他()	千円	0	0	0	0	0
	A 小計 ①～⑤	千円	61,939	62,663	65,088	66,023	66,010
人件費	⑥延べ業務時間数	時間	667	667	667	667	667
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	2,668	2,668	2,668	2,668	2,668
計	トータルコスト A+B	千円	64,607	65,331	67,756	67,009	67,756
備考							

3 事務事業の評価 (See)

(1) 必要性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

① 施策体系との整合性

市民サービスを効率的に提供または処理するためには、電算システムの活用が不可欠であり、その基盤となる庁内ネットワークシステムの整備及び安定稼働は必須であることから当該事業の意図と結びついている。

② 市の関与の妥当性

市が実施する事務事業遂行のための基盤であり妥当である。

③ 対象の妥当性

事務事業を実施するための各種電算システムとそれを利用する職員・施設を対象としており妥当である

④ 廃止・休止の影響

情報システムを活用した住民サービスを提供するためには、基盤となる庁内ネットワークシステムの整備及び安定稼働が前提条件となることから廃止は考えられない。

(2) 有効性評価（成果の向上余地）

機器更新や接続回線の適正化を行うことにより、情報の送受信の迅速化が図れる可能性がある。

(3) 公平性評価（評価分類が「内部管理」の事務事業は記入不要）

特定の受益者の有無：無

(4) 効率性評価

① 事業費の削減余地（成果を下げずに事業費を節減できる余地）

庁内ネットワークの整備及び運用に係る費用のほとんどは、使用される通信機器の賃借料や保守費用であり、固定費となっているために削減はできない。また、ネットワーク環境に求められるものが、高速化（必要帯域の確保）のほか、耐障害性の向上やセキュリティの確保など、より高度化しているため、安定稼働を確保するためには、それらに対応する高性能な資源が必要であるため、将来的にも削減は難しい。

② 人件費の削減余地（成果を下げずに人件費（延べ業務時間数）を削減する余地）

執務室レイアウト変更等に係る配線作業の部分は、担当職員の技術、能力向上や変更を行う部署との連携強化により作業効率を上げることで、削減の可能性はある。ただし、変更規模が毎年異なることなどから単純な前年比較は困難である。

ネットワーク機器等の設置や保守部分は、職員自らが行う保守管理作業が最小限となっていること、運用監視、故障機器交換、設定修正等の作業の立会いは必須業務であることから、削減は難しい。

4 事務事業の改革案（Plan）・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 概要（新しい総合計画体系における位置付け）

総合計画 体系（新）	施策（方針）	経営資源配分の最適化	コード	102
	小施策（推進項目）	事務改善の推進	コード	10203

(2) 改革改善の方向性

ネットワークにおけるセキュリティや技術動向の変化に対応しつつ、必要に応じて設定変更、機器更新、接続回線の増強を行い、情報の送受信の適正化、迅速化、耐障害性及び障害対応の向上を図る。

(3) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

機器更新や回線増強時の財源捻出のほか、施設等の場合には場所により通信事業者が提供するサービスがない場合もある。現在、長期継続契約で機器の更改を実施しているが、その更新のタイミングで最適な構成・構築を進めるよう努める。

5 課長意見・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 今後の方向性

- ☐ 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- ☒ 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- ☐ 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

① 全体総括

庁内ネットワークは、各業務システムやグループウェア等を運用するために不可欠な基盤であり、安定的かつ適正な管理が求められる。通信速度やセキュリティ等の向上を図るとともに、耐障害性を強化していく必要がある。

② 今後の改革改善の内容

平成 27 年度は、基幹となる本庁舎及び玉山ネットワークの更新時期となっており、可用性・信頼性・管理性の高さや新しい技術を考慮し、5 年後を見据えた LAN 網の構築を行う。

また、業務継続性を考慮し各スイッチ等の冗長化を図るとともに、各システムの稼働において通信機器及び回線容量がシステムの処理性能を低下させることのないよう、最適なネットワーク環境を整備する。

LAN 環境の効率的な運用ができるよう、引き続き無線 LAN 環境の構築を進める。